

ぼくはえん筆

桜木小・4 山本 理央

気づくとあの子の教室で
またぼくは勉強用に使われて
しんが丸くなっていた

ぼくはえん筆
いつも勉強を手伝っている
いろんな漢字を覚えてたね

「これからもよろしくね。」
けずってもらいながらあの子に言った

5・9

あの子が覚えていく度に
ぼくも一生けん命しんを出した

いつの間にか長いえん筆が来て
最近ぼくは使われなくて
しんが折れそうになっていた

ぼくはまだ使えるよと
しんをとがらせてゆれた

あの子はしんをけずってくれて
さらにしんがとがった

次の日ぼくは筆箱に入れられた
どうなるのか気になって
すき間からのぞいていた